

市長 おっしゃるとおり、一番大きな問題は宿泊施設です。しかし、全部新しく作るのとは不可能です。海外と佐渡との違いはたったひとつ、部屋がきれいかどうかです。そこで、おもてなし条例で、企業、ホテルや旅館は何をすべきか、ということ、それぞれやっていたいただきたい。また、農家民宿や農家民泊もありますから、今それを一生懸命増やしているところです。今53万人の観光客が佐渡に来てくれていますが、これを70万人くらいにしなければなりません。70万人は佐渡のキャパに収まります。

高校生 今佐渡は人口が減少していき家も増えていると思いますが、伝統的な造りの家などを宿泊施設として活用することが可能だと思います。



市長 そうですね。それは可能だと思います。今33の大学・短期大学と交流をしていて、その学生たちが佐渡に来ていますが、なるべく安いところに泊まりたいというのがあります。例えば廃校や空き家がありますから、改造費をつけて直していくことなどをやっています。

高校生 バスの本数が少ないという意見があり、バスを小型化して本数を増やすなどの手段を考えました。

市長 確かに、佐渡の交通は未整備の部分がいっぱいあります。困るのが、皆さん学生さんが通学するときに乗る時間帯は大型バスが必要ですが、それ以外は小型バスや5、6人乗りでも十分です。しかし、どこも過疎化が進んで小型バスが欲しいので、なかなか佐渡に回ってこない。だから、皆さんにバスにいったい乗ってほしいのです。空気を運ぶのではなく、7、8割の人が乗ってくだされば一番いいのです。

高校生 ガイドの育成についてはどのように思っていますか。

市長 今ボランティアガイドが一生懸命やっています。お客さんに聞くと、ボランティアガイドさんが楽しいと言います。また、小・中学生がやってくださって、休みの日にしかできませんが、皆さん本当に感動して帰って行かれます。また、今年のトライアスロン

で私のあいさつの通訳を女子高生がやってくれて、すごく評判が良かった。つまり、プロのガイドが本当に必要かと考えたとき、違う方向があるのではないかといいことです。

高校生 船の2時間半で、例えば佐渡の方言講座などをホールでやるなどはどうですか。

市長 今はまだやっていませんが、そういうこともこれからやっていくということ、今佐渡汽船と打ち合わせしています。

高校生 バス停の周りにゴミなどがよく捨ててありますが、注意の呼びかけはありますか。

市長 佐渡は、環境はもちろん観光の島としてお客様に喜んでもらわなければなりません。市民が皆そう思ってもらえれば、そのゴミというのは出ないのです。ですから、おもてなし条例みたいなもので、ひとつひとつやっていかなければなりません。

高校生 海のゴミ拾いはボランティアが多いですが、これを事業でやることはできませんか。

市長 夏場の海水浴シーズンの前に1回事業としてやります。そのほかはボランティアの方をお願いしています。今我々が考えているのは、ボランティアをやってくれた人たちにポイント

を出して、そのポイントを使って商店街で何か買えるとか、そういうポイント制というものを始めることにしました。

高校生 運動部の練習試合ができず、レベルアップが難しいです。部活で島外に行くときの補助などありますか。

市長 単なる練習ということではなく、8位までに入った場合、小・中学校では補助していますが、高校では今やっています。なんとかやるように担当課には指示していますが、すべてというわけにはいきません。ただ、佐和田に総合体育館がオープンしましたが、練習試合という形で向こうから来てもらうことも一生懸命やります。優秀な選手を呼んで、そこで指導を受けるとか、いろいろなことを考えています。

